

「青森県八戸市」「岩手県盛岡市」視察会の報告

〔「観光・飲食部会」「水産・食料品部会」
合同視察研修会〕



1. 「観光・飲食部会」「水産・食料品部会」合同視察研修会 事業内容

1. 目 的

北陸新幹線の敦賀駅開業が今年の3月16日と迫るなか、更なる観光客等の受け皿づくりをはじめ、地域ブランドの向上が必須となっている。

そこで、敦賀駅と同じく新幹線の終着点として2002年に開業し、多くの観光客が訪れている八戸市や、八戸市への延伸前に終着点となっていた盛岡市内の観光施設等へ視察を行うことで、観光客等の受け皿づくりや地域ブランドの向上に向けた推進体制や現状について学ぶ。

2. 期 間

令和6年3月5日（水）～6日（水）〔1泊2日〕

3. 視察先

青森県八戸市、岩手県盛岡市

4. 事業内容

【3月5日（火）】

- ①一般財団法人 VISIT はちのへ（説明・懇談会）
- ②八食センター（視察）
- ③八戸商工会議所（説明・懇談会）
- ④みろく横丁（視察）

【3月6日（水）】

- ①盛岡商工会議所（説明・懇談会）
- ②岩手銀行赤レンガ館（視察）
- ③もりおか歴史文化館（視察）

2. 参加者名簿および行程表

NO	参加者名	事業所・団体名	役職名	所属部会	備考
1	刀根荘兵衛	(株)塩荘	取締役会長	副会頭 (観光・飲食部会)	新幹線延伸 対策委員会 (委員長)
2	高橋一郎	(株)観光ホテル	代表取締役	部会長 (観光・飲食部会)	5日のみの 参加
3	壁下恒和	(株)相木魚問屋	会長	部会長 (水産・食料品部会)	
4	小堀真嗣	(有)小堀菓舗	代表取締役	副部会長 (水産・食料品部会)	
5	奥井純子	敦賀商工会議所	専務理事	事務局	
6	勝田於久里	〃	中小企業相談所 主事	〃	

月日(曜)	行程表
1日目 3月5日 (火)	敦賀駅 しらさぎ 2号 米原駅 ひかり 508号 東京駅 はやぶさ 15号 八戸駅 7:12 7:46 7:57 10:10 10:20 (車中にてお弁当) 13:04 タクシー 説明(60分) 意見交換会(30分) タクシー (視察) 説明(60分) VISITはちのへ 八食センター 八戸商工会議所 13:20 14:50 15:10 15:50 16:10 17:10 ホテルチェックイン後 視察・参加自由解散 八戸市内・夕食 八戸屋台村みろく横丁 18:00~ (徒歩2分) 20:30~ □夕食は『割烹 さんりく』にて郷土会席膳
2日目 3月6日 (水)	八戸駅 JR はやぶさ 14号 盛岡駅 タクシー 説明(60分) 何杯食べられるか挑戦 9:05 9:41 10:40 11:50 12:00 13:00 (視察) 観光ボランティアによる盛岡珠玉の街コース (視察) 岩手銀行 赤レンガ館 紺屋町番屋 城址公園 啄木賢治館 もりおか歴史文化館 13:10 15:00 盛岡駅 こまち 28号 東京駅 ひかり 527号 米原駅 しらさぎ 15号 敦賀駅 15:20 15:50 18:04 18:33 (車中にてお弁当) 20:44 20:56 21:24

3. 一般財団法人 VISIT はちのへの説明会及び懇談会

3月5日（火） 13時20分～14時50分

- 場 所：一般財団法人VISITはちのへ 事務所内 4階研修室
- 対 応 者：阿部 寿一 専務理事、高村 潤 課長、西野 正紀 チーフ
- 内 容：八戸地域の状況および財団の取り組みについて説明頂いた。

一般財団法人VISITはちのへの取り組みについて

- 概 要： VISIT はちのへ設立以前は、観光・物産推進団体が5団体あり、それぞれの団体で活動をしていたが、2019年4月1日に5団体が統合し、「一般財団法人VISITはちのへ」を設立した。

設立のねらいとしては以下の通り。

- ① 観光誘客と物産振興の融合による相乗効果
- ② 物産振興事業による地域の「稼ぐ力」の醸成
- ③ 重複業務削減による業務効率化
- ④ 専門人材採用と人材育成による持続可能な組織作り

○八戸地域の現状

東北新幹線新青森開業時（2010年）の八戸エリアの入込客数は約880万人であったが、コロナ禍前（2019年）は約960万人と堅調に推移。背景としては、長らく東北有数の産業地帯として栄えてきた影響で出張目的で来訪するビジネス客が平日を中心に多いこと、また、東北新幹線八戸開業から20年以上経過していることもあり、過去にビジネスで来訪した方がリタイア後にリピーターとして観光目的で再訪することの2点があげられる。

○受け皿づくりへの取り組み

VISIT はちのへの主要な取組みとしては以下の2点である。

- ①交流人口の拡大：国内外からの観光誘客、MICE誘致を柱として、旅行商品の造成、デジタル広告による認知度向上、インバウンド誘客のための認知向上・流通環境整備等に取り組む。
- ②地域産品の振興：販路拡大を柱として、展示・即売、旅行商品・地域産品等分野横断販売プラットフォーム運用、ふるさと寄付金等の事業に取り組む。



4. 八戸商工会議所での説明会及び懇談会

3月5日（火） 16時10分～17時10分

- 場 所：八戸商工会議所 特別会議室
- 対 応 者：副会頭 塚原 隆市 氏、専務理事 向井 俊晴 氏、主事 大南 裕太郎 氏、
八戸市中心市街地活性化協議会 タウンマネージャー 妻神 敬悦 氏
- 内 容：東北新幹線八戸駅開業と地元の取り組みについて説明および懇談会を行った。

八戸商工会議所の取り組みについて

○八戸商工会議所の取り組み内容：

- ・平成9年9月、八戸商工会議所「新幹線対策小委員会」が、新幹線開業に伴う、影響、課題、対策等を取りまとめ提言。
- ・平成11年9月、「東北新幹線八戸駅開業協議会」設立
- ・平成12年9月、「八戸観光開発プラン推進特別委員会」設立
開業までに解決すべき課題や観光振興策の整理
→地域振興策の具体的な検討
 - ①ソフト・ハード両面の受け皿整備
 - ②既存の観光資源の活性化
 - ③土産品・郷土料理の商品化
 - ④セールスプロモーション
- ・平成13年3月、八戸市の新幹線八戸駅舎等整備基金の募金活動を開始
八戸商工会議所受付分/252百万円
八戸市受付分 /162百万円
- ・平成13年7月、「新幹線八戸駅開業事業実行委員会」設立
メンバー：130名（八戸商工会議所会員が中心）
開業事業、観光振興事業の実行部隊。4つの部会で構成。
 - ①観光部会 ②キャンペーン・イベント部会 ③食文化創造部会
 - ④総務・広報部会

○新幹線八戸駅開業実行委員会の取り組み

- ①八戸駅開業イベント（12月1日、2日）
- ②岩手・一戸トンネルウォーク
- ③おんでやあんせ八戸キャンペーン
- ④観光パンフレットの作成
- ⑤旅行雑誌・テレビ等によるPR
- ⑥北のグルメ都市・食文化創造都市実現に向けた創作アイデア料理・伝統郷土料理の提案、PR
- ⑦八戸屋台村「みろく横丁」のオープン
- ⑧八戸らーめん会の設立
- ⑨ふるさと自慢文庫「おんでやあんせ八戸」の作成
- ⑩ホスピタリティの醸成
→市民フォーラム、セミナー、研修会支援事業

○はちのへ観光誘客推進委員会の取り組み

平成17年4月、「はちのへ観光誘客推進委員会」設立

メンバー：28名（八戸市、八戸商工会議所、観光協会、物産協会等）

- ・平成22年の新青森駅開業を八戸地域にとっての第二の開業・青森県の玄関口となる機会と捉える。

新たな視点として、①地域内の特色ある観光資源を発掘し有効な組み合わせを構築、②岩手県北地域との連携による広域観光、③地域ブランドの形成

<事業内容>

- (1) 八戸観光PRキャンペーン
- (2) 旅行商品造成による誘客促進事業
- (3) 東北新幹線開業5周年イベントの実施
- (4) 東北新幹線全線開業イベント
→青森県の玄関口として八戸をPR
- (5) 地域ブランド形成事業

○はちのへ観光復興委員会の取り組み

平成24年4月「はちのへ観光復興委員会」設立

メンバー：95名（八戸市、八戸商工会議所、観光コンベンション協会）

<事業内容>

- ・東日本大震災による観光客減少からの復興
- ・新幹線都市間における競争力の強化

○八戸観光創造委員会の取り組み

平成28年3月に北海道新幹線新函館北斗駅開業を受け、同年5月に、「八戸観光創造委員会」を設立。

メンバー：77名（八戸市、八戸商工会議所、観光コンベンション委員会）

<事業内容>

- ・新たな視点で観光振興に取り組む
「観光による復興」⇒「観光の創造」
「観光復興対策」⇒「観光誘客促進」



5. 八戸市内の観光施設の視察

3月5日（火） 15時10分～15時50分

- 場 所 八食センター
- 内 容 1980年（昭和55年）にオープンし、2020年に創業40周年を迎えた大型の市場である。施設は全長170メートルに約60店舗が並び、水揚げされたばかりの新鮮な魚介類や青果・精肉・珍味・お菓子等、八戸の名物がすべて揃う施設となっている。



3月5日（火） 20時30分～21時00分

- 場 所 八戸屋台村みろく横丁
- 内 容 2002年12月1日の東北新幹線の八戸駅延伸開業に合わせ、2002年11月19日にオープンし、多くの観光客等が訪れている「みろく横丁」を視察し、「観光客受入体制」や「運営手法」等について学ぶ。



6. 盛岡商工会議所での説明会及び懇談会

3月6日（水） 10時20分～11時50分

- 会 場：盛岡商工会議所 2階特別会議室
- 対 応 者：観光・料飲・サービス部会長 太田代 洋一郎 氏、専務理事 菊池 透 氏、
事務局長 水野 匠 氏、地域振興部長 佐々木 洋子 氏、主事 家子 猛 氏
- 内 容：2002年12月1日の東北新幹線八戸延伸開業前に、1982年6月から
約20年間にわたり、東北新幹線の終着点であった盛岡市の商工会議所や市
等の関係者との懇談会を行い、観光客等受け皿事業や推進体制等について学
ぶ。

盛岡商工会議所の取り組みについて

○盛岡商工会議所の取り組みについて

- ・平成14年7月 工業部会講話「盛岡市の産業振興について」
東北新幹線の開業により、マンション、ホテルの増加、コンベンション機能の
充実等により観光客も増加し、盛岡の包容力が高まった。
→八戸の延伸は、盛岡が再度注目を集めるチャンス
- ・平成14年 さんさ踊り「東北キャラバン」
さんさ踊りを東北地方により強くPRするために、ミスさんさ踊り及び盛岡さ
んさ踊り実行委員会役員等が中心となりさんさ東北キャラバン隊を組織し、東
北の県庁所在地の主なマスコミを訪問し、さんさ踊りの認知と観光誘客を図っ
た。
- ・平成15年4月 「八戸視察研修会」
八戸駅長より八戸駅の構造や周辺施設について説明を受ける。
「八食センター」、「屋台村」等を見学。
- ・平成15年 さんさ踊り「東北新幹線誘客キャンペーン」
盛岡への誘客を図るため、東京駅にてキャンペーンを実施。

○東北新幹線八戸開業1年に伴う盛岡市の経済効果

- ・開業後の1月から9月までの市内の観光客の入り込み数が2,833千人、前年同
時期が2,809千人となっており、ほぼ横ばい。
宿泊者数は759千人、前年が765千人で前年比99.2%
→八戸延伸に伴い懸念されていた観光客の落ち込みなどの現象はほぼなか
ったと言える。

○盛岡商工会議所の主な観光振興事業

- ・短歌のまち もりおか推進事業 啄木のふるさと「もりおかの短歌」
近代短歌に新しい世界を切り開いた歌人・石川啄木が生まれ育った盛岡を訪れる観光客や市民による、啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて、『短歌のまち もりおか』のブランド化を目指す目的で実施。
- ・盛岡城跡公園ライトアップ事業
盛岡城跡公園の石垣ライトアップにより冬季間の観光スポットとしての定着を図り、観光振興に資することを目的に実施。
- ・地元学検定「盛岡ものの識り検定試験」
盛岡ものの識り検定は、盛岡市に関する歴史、文化、産業、観光、自然、風土、など多分野にわたり、“盛岡通”度を認定する検定試験で、平成18年より実施。
- ・盛岡さんさ踊り
盛岡商工会議所、盛岡市、盛岡観光コンベンション協会、盛岡青年会議所で構成される「盛岡さんさ踊り実行委員会」の事務局を担当。
協賛活動やミスさんさ踊りの選出、祭りの諸準備、当日の運営、年間を通じて盛岡さんさ踊りの派遣、普及、PR活動を行う。



7. 盛岡市内観光施設の視察

3月6日（水） 13時30分～15時00分

- 会 場 岩手銀行赤レンガ館～もりおか歴史文化館周辺
- 対 応 者 盛岡ふるさとガイド（（公財）盛岡観光コンベンション協会）
- 内 容 ニューヨークタイムズ紙にて「2023年に行くべき52カ所」の2番目に選ばれた盛岡市の歴史情緒あふれる諸観光施設を視察する。



8. 総括

以上、八戸・盛岡視察研修会の報告となるが、新幹線開業に伴う受け皿づくりとして以下の点について留意すべきと考える。

- ・八戸市、盛岡市の両方に当てはまることであるが、普段からビジネスでの来訪客が多く新幹線の延伸後もさほど宿泊者数などのデータ上は影響がなかったと言える。観光コースや旅行商品を作成すること等といった観光客に対してのリーチは当然であるが、既存のビジネス客に対しても施策を打つべきと考える。

参考にするべきと考えるのは、八戸市の「八戸屋台村 みろく横丁」が挙げられる。このエリアは、八戸商工会議所での説明の中で意欲の高い若者が中心となって、現在26店舗ほどがプレハブのような店舗で営業中であり、基本的に3年交代で運営をしているとのことである。スペースや運営管理等の課題はあるが、敦賀市においても再現可能な施策であると考えられる。

- ・視察の中で印象に残ったのが、観光施設について新たに作って誘客するというよりも、既存の施設を整備し誘客を図るケースが多いということである。八戸市であれば、八食センターや毎週日曜日に行われる館鼻岸壁朝市が、盛岡市であれば、岩手銀行赤レンガ館や盛岡八幡宮などが人気の観光スポットである。敦賀にも既存の観光施設は数々あり、そこをブラッシュアップすることが先決と考える。

また、盛岡市においては毎年8月頭に「盛岡さんさ踊り」という大規模なお祭りがあり、直近の2023年は延べ114万人の来場者であった。このさんさ踊りでは「ミスさんさ踊り」を公募し、市内外でのさんさ踊りの普及・PRを行っており、敦賀市においても敦賀まつりで同じような施策を行うことができる余地があると考えられる。

- ・初日に訪問した八戸商工会議所の施策の中で参考になると感じたのが、ふるさと自慢文庫「おんでやあんせ八戸」の作成である。この冊子は、市民にまず八戸市のことを知ってもらい、ホスピタリティの醸成を図る目的で作成をしていたが、敦賀市においても同様の冊子は存在しているが、今一度、取り組み、敦賀市民のホスピタリティの醸成を図る必要があると感じた。

以上